

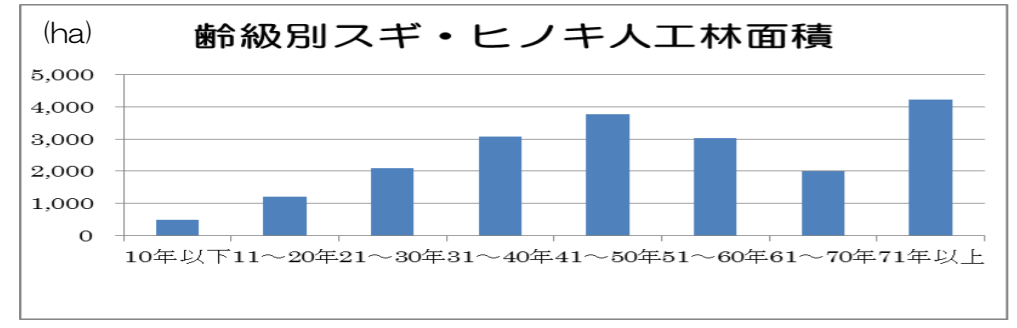
# 放置森林対策行動計画の改定 ～木材の利用拡大に向けて～

## 放置森林対策行動計画の概要

平成 19 年度「放置森林対策行動計画」策定  
 期間：前期（H19～24 年度の6年）後期（H25～28 年度の4年）  
 目的：「防災等の機能を取戻すために早急に間伐を進める」

## 行動計画をとりまく状況の変化

- 前期における間伐目標量は一定達成  
 防災と温暖化防止対策を優先した伐り捨て間伐を実施
- 大阪府の人工林が収穫期に移行しつつある  
 収穫期の 11 齢級（51 年生）以上が約 50%を占め、10 年後には 65%となることから、一層の木材利用拡大が喫緊の課題



- 国の方針も『伐捨て間伐から利用間伐へ』
  - 森林・林業再生プラン策定（平成 21 年）  
 平成 32 年までに木材自給率を 50%へ（林業・木材産業の再生）
  - 地域型住宅ブランド化事業（平成 24 年～）や木材利用ポイント事業（平成 25 年）など木材利用拡大施策の強化  
 地域材を使用する住宅（新築・リフォーム）への補助により需要を喚起

## 改定の方針

- 収穫期にある人工林の伐採搬出を進め、森林の公益的機能を向上
- 木材利用の一層の拡大によって、林業・木材産業の再生と持続的な経営を促進
- 川上と川下が同じ目標を見据えて行動できるよう目標値を改定（間伐材利用量の目標値 3,000m<sup>3</sup>は平成 22 年度に達成済み）

## 目標値の設定

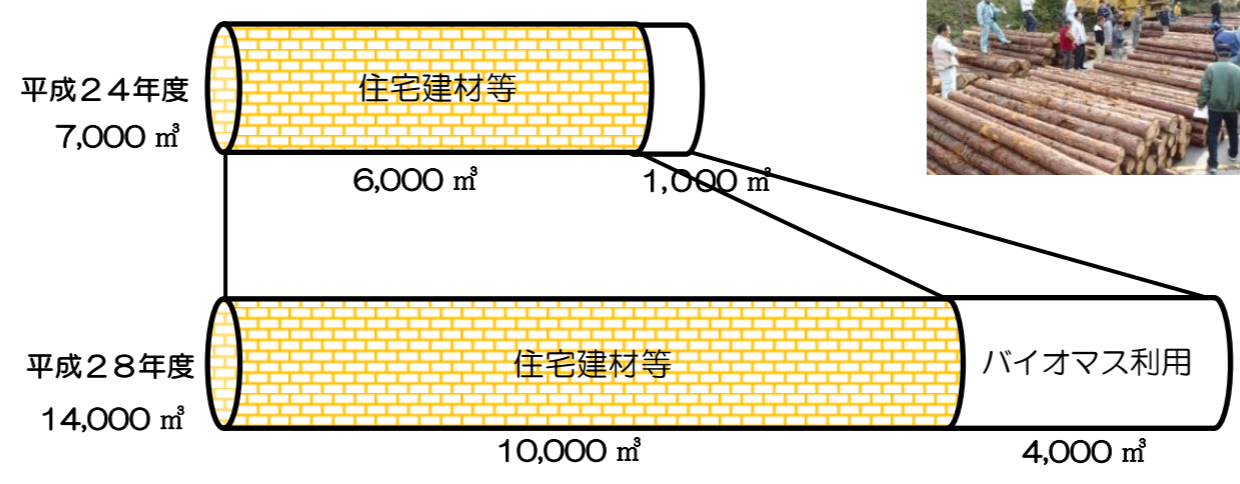
●平成 24 年度の木材利用量 7,000m<sup>3</sup> を 28 年度には倍増することを目標  
 ⇒木材利用量：14,000m<sup>3</sup>（平成 28 年度）

年度	目標値 (千m³)
H24	7,000
H25	10,000
H26	12,000
H27	14,000
H28	16,000
H29	18,000
H30	19,000
H31	20,000
H32	20,500

※前期 6 年間の増加量 5,000m<sup>3</sup>に対して、後期 4 年間で 7,000m<sup>3</sup>  
 ※森林・林業基本計画では、平成 32 年度に人工林の年間成長量の 64% の利用が目標（大阪府では成長量 32,000m<sup>3</sup>×64%=20,500m<sup>3</sup>）

## 目標達成に向けた取組み

### 木材利用量の拡大



## 参考

- ### 住宅における木材利用
- 住宅 1 棟約 20m<sup>3</sup> 木材使用
  - 国産材率は約 20%の 4m<sup>3</sup>/棟
  - 府内住宅着工数：約 23 千戸 (H24)
  - 府内の住宅に使用される国産材：4×23 千=約 92 千 m<sup>3</sup>
  - 地域型住宅ブランド化事業：構造材の過半に地域材利用で補助
  - 木材利用ポイント事業：平均的な住宅で 8m<sup>3</sup> 以上地域材利用で補助

## 受託生産体制の構築

- ### 森林経営計画策定と路網整備
- 林業事業者や森林所有者に森林経営計画の作成を働きかけ  
 612ha (H24) → 4,000ha (H28)
  - 間伐施業地の路網密度を向上  
 20m/ha (H24) → 40m/ha (H28)
  - 林業機械の生産性の向上  
 伐採搬出経費 12 千円 (H24) → 9 千円 (H28)
- ### 林業事業者の育成
- 森林施業プランナーの育成等、森林経営計画を策定するための各種研修を実施  
 プランナー 15 名 (H24) → 25 名 (H28)
  - 経営計画策定のための調査等費用について、市町村を通じて支援 (H28 まで)
- ### 林業活動促進地区の指定促進
- 経営計画を含む地区において、森林所有者等と製材所との相互連携による供給体制を構築するため、地区指定を促進  
 2 地区 (H24) → 12 地区 (H28)

## 木材の需要喚起

- ### 工務店等のネットワーク化
- 木育やおおさか材の相談・普及の窓口として、設計士・工務店等を「木のぬくもりネットサポーター」に登録
- ### おおさか健康住宅評価制度の創設
- 無垢材を使った住宅の調湿効果や空気浄化効果、衝撃緩和効果、リラックス効果などを測定し、第三者機関が評価する制度を創設
- ### 一園一室木質化運動の推進
- 長期的な需要喚起の取組みとして、一園一室のほか、公立小中学校を対象とした一園一室木質化など木育活動を進める  
 → +2,000m<sup>3</sup>
- ### 木材製品の高付加価値化 +2,000m<sup>3</sup>
- 住宅耐震化や省エネ用断熱材など木材の新たな用途開発や、杉スリット材の実証を支援し、内装やリフォーム分野で利用拡大を図る

## バイオマス利用の促進

- ### 木の駅プロジェクト +1,000m<sup>3</sup>
- 土場の整備やバイオマス発電事業者とのマッチングにより、未利用材の搬出促進と、森林所有者の意欲向上を図る  
 20m<sup>3</sup> (H24) → 1000m<sup>3</sup> (H28)
- ### 供給協定締結の促進 +2,000m<sup>3</sup>
- 未利用材の計画的な供給のため、林業事業者とバイオマス発電業者との協定締結による直送体制を促進
- ### 木の駅プロジェクトの試算
- 「軽トラとチェーンソーで晩酌を」
  - 買取価格 4,000 円/t
  - 1 回当たり軽トラ 6 台分で 2t
  - 毎月 2 回搬出すると、16 千円/月
  - 上記の参加者が 20 人いれば、年間目標量の 1000m<sup>3</sup> を達成

### おおさか材認証制度

- おおさか材の供給力向上のため、認定製材工場を 20 社に拡大
- おおさか材のブランド力向上のため、品質・性能認証を付加



### 地域産材活用フォーラム

- 川上から川下までの関係者が参画するフォーラムを活用し、おおさか材の理解を促進

